

ふれあいと語らいの同窓会

創刊号



東実同窓会報

NO.1

発行 〒144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL. 03-732-4481 東京実業高校同窓会編集委員

同窓会報の発刊にあたって



会長 村松 濱代

平成元年と年号が改まりました年に同窓会報一号を発刊することは、何か自然の流れがそこにあったような観がいたします。

この同窓会報を発刊するいきさつは、過去の同窓会の年会費制度を改め終身会費制度にしたことから始まりました。どんな会もそうであるように一つの組織を作り運営してゆくには資金が必要です。同窓会の主たる資金は毎年学校を卒業してゆく生徒が同窓会の規約に従って、3,000円を同窓会の入会金として納付するお金と、卒業生が納付する年会費とで賄っておりましたが、後者の方は数も多く請求書の発行が不可能であり総会とかその他の機会に納入をお願いする以外手段がありません。従って思うように納入されずごく一部の卒業生のみが納入していたと申しても過言でない状態が実情であり、同窓会

の事業として5年毎に発行する同窓会名簿の作成費の捻出のみで精一杯な有様でした。そこで井上校長にご相談申し上げ、将来の同窓会の在り方をどのようにしたらよいか、同窓会としてのある程度の目的を達成する為の資金をどのようにして集めたらよいか、その結果として終身会費制度に改めました。

既ち在學生は平成元年卒業生は現行の3,000円、平成二年の卒業生は5,000円平成三年以降の卒業生は10,000円と段階的に改定するとともに過去に卒業した人で既に年会費を振り込んである人は終身会費として5,000円、年会費の未納の方は10,000円の終身会費を納めていただくことに致しました。勿論同窓会はお金を集める会ではありません。この会費を有効に卒業生と学校の繁栄の為に利用しなければなりません。その手段の一つとしてこれを

役員紹介



会長 村松濱代



学校長 名誉会長 井上 稔



副会長 上野 毅



副会長 渡辺和彦



副会長 佐々木 努



副会長 後藤光明



副会長 木村恭久



副会長 本田位公子

機会に毎年同窓会報を発行し、学校の現況、卒業生の動向その他のお役に立つ記事を掲載し、在校生、卒業生に色々な面で広報的な役割を果たしたいと存じます。その他資金の範囲内で、生徒が属している部活動を援助したり、学校の催し事、記念事業等に同窓会としてご協力申し上げる事に致しました。又卒業生のご意見も承り意義のある同窓会としての事業があれば幹事会で協議をして採決してゆきたいものと考えております。

このような経過を辿って今回の同窓会報の第1号が発刊となりました。この発刊に当たりましては大変ご多忙のところを22期卒の井上実氏が中心となり、学校の先生方のご援助もいただきました事を厚くお礼申し上げます。この同窓会報が母校、東京実業高等学校と共に卒業生諸君の暖かいご支援のもとに益々発展して行きますことを心から念願致しております。

「郷愁」

学校長・名誉会長
井上 稔



今年から新しい企画で同窓会報が発行されるとの事で、実に慶賀のいたりです。「同窓会」という言葉はずいぶん昔から言いならされていますが、私たちぐらいの年齢になると、何となくこの言葉には遠いふるさとや幼い日の思い出につながるいわゆる「郷愁」を感じるものです。学生時代どんなにつらい事があり、悲しい思い出があってもこの期間は自分の一生の歴史からぬぐい去ることの出来ない1ページで、それは胸をしめつけられるような、溢れ出る青春の情感でしょう。恐らく同窓会員の皆様も、それぞれの東実時代がどんなものであっても、この会報を手にして一時でも過ぎた高校時代の思い出をよみがえらせることが出来ると思います。この会報が東実で青春を過ごした同窓生諸君の「郷愁」をふくらませる一助として、永く永く引き続かれるよう祈ってやみません。

さて、この夏は暑さが体にこたえる程の日々でしたが、もう十月を境に晩秋ともいえるような冷い朝夕が来ています。11月23日は、早いもので前校長上野幸一先生の1周年を迎えます。この創刊号も先ずその霊前に捧げられましょう。あの闊達な声も笑顔も、私達の思い出になってしまいました。幸一先生の学校法人葬は、12月17日に本校で営まれました。この12月17日は偶然なのですが、前々校長上野熊蔵先生の27回目のご命日なのです。昭和37年の12月は好天でしたが寒い日でした。私達は前日に亡くなられた宮野要先生の葬儀に参列して麻布三河台の

お宅に集まっていた。そこで幸一先生も私達も熊蔵先生の訃報を知らされたのです。宮野先生は、東実に陸軍の教官として配属されて来た方ですが、熊蔵校長のすすめで学校に残り、以来30年にわたって東実の名物教員として大きな存在でした。私達は、宮野先生は熊蔵校長の先導として二人で旅立たれたのだと話し会いました。皆偶然のことです。粕谷光徹先生は熊蔵校長の長女の夫君でしたが、早稲田大学の学生時代から東実の教壇に立ちユニークな話題と手振りの授業で生徒の人気のまもでした。後に埼玉県県会議員となって、地方政治にも大活躍をされました。二十五年以上も商業科長であった高橋道広先生は真面目一筋で東実には40年勤続でした。定時制主事を任されて、学校に居る時間の最も長い先生として有名でした。徳川の旗本ご家人をもって自ら任じていた江戸ッ子朝倉一郎先生の酒脱な姿も生徒達には忘れられないものでしょう。そして、あのカン高い声で朗々と漢詩や和歌を読み上げて、ある時生徒におそれられ、又親しまれた鷹野宗太郎先生は囑託をふくめて48年という長い東実勤務で、まさに本校の歴史そのものでした。これら先生達は、ご自分の生涯を東実の長い歴史の中に埋没されたわけで、恐らく数十人の卒業生達がかかわりをもっていることとなります。すべてなつかしい思い出のひとつまで、これこそ私学のよさでしょう。

学校はあと2年余りで70周年の古稀をむかえます。そしてこの時代は、日本の人口動態の変化の中で私学経営にとって大変苦しい時代とされています。私学の支えとなるのは何といても数多い同窓生達の有型無型の応援です。その意味で同窓生の発展は母校にとって大きな期待といえるのです。会員、特に役員諸君のご活躍を心から祈っています。(平成元年10月25日)

創刊号によせて

上野塾 理事長 上野 雅子



東京実業高校も創立以来、六十七年という年月が流れ、その間に同校を卒業していった生徒は23,000人という数にのぼり、この日本の、あるいは他国の地において、いろいろな分野で活躍している事と思えます。

“卒業生は学校の宝石である”とは、父の口ぐせで、同窓会・クラス会などに招待されますとどんな遠い所でもうれしそうに出かけていった姿を思い出します。ことに若い教師時代に教えた生徒たちとのつきあいは、直接生

徒たちと触れあう事の無くなってしまった学校長時代と違って、懐かしさもひとしおだったのでしょう。写真機をいつでも持参して、何枚も何枚も撮ってきては家族に見せ、今はこんな仕事をしているが、学生時代はこんなだった、あんなだったと話してくれたものでした。

私が東京実業で教鞭をとるようになったのは、確か大学四年の一月から、英語担当の岡野先生の産休のピンチ・ヒッターとして、女子のクラスを教え始めた事でした。そんなに年の違わない生徒達とどんな内容の勉強をしたのか今では全然記憶にありませんが、小さい頃は身体も弱く、学校も休みがちで、本当におとなしい子供だった私が中学・高校・大学と進むうちに少しずつ活発になり、ついには教壇に立って、人前で勉強を教える身になるうとは、何たる変化だなどと自分で驚いてしまったように覚えています。わずか二ヶ月という本当に短い間でしたが、その時の教え子の渡辺洋子（旧姓村岡）さん、靖恵美子（旧姓峰尾）さんとは御主人がそれぞれ東実の卒業生だったり、東実の先生（現在は東京高校の先生）だったりした関係で、家族ぐるみのつきあいをしております。

大学を卒業して、女子のクラスあるいは男子のクラスなどを教え始め、私なりに先生らしくなり始めたのはいつ頃の事だったのでしょか。常に講師という立場だったので独身時代が長く女生徒達によく「先生、結婚しないの？」と質問されて、勉強そつちのけで、キャーキャー

一騒いだ事も楽しい思い出です。その後アメリカへ行ってみたりドイツへ行ってみたりしながら、二人目の子供が出来るまで、ずっと東実で教えてみましたが、どんな先生ぶりだったのか、これは現在東実で教鞭をとっておられる知念先生、細井先生、事務の飯塚さん、そして現在ニューヨークで得意の英語を生かして仕事をしている竹村和治君などに一度聞いてみなくてはなりません。皆かつて私の教え子でした。

教師というものの一番の楽しみは、生徒達が卒業していった、それぞれ立派な大人になって先生の前に姿を見せてくれる事ではないかと思ひます。学校時代あんなにわんぱく坊主だったのに立派な紳士となり、仕事も出来るすばらしい男性になっていたりすると、学校時代の成績の良し悪しが、必ずしも社会に出てからの評価と全然関係のないものだという例は数多くあるもので、そこが又、生きている事の楽しさ面白さなのかもしれません。

理事長就任以来、同窓会総会や、新年会・クラス会などいろいろな集まりに顔を出すようになりまして、だいぶお古い卒業生の方々と親しくなり、父の思い出などもお話していただいておりますが、今後増々皆様方の御活躍を願ひまして、又、新しい卒業生達がどんどん参加して下さる事もお願いし、「卒業生は学校の宝石である」という前理事長の思い出を私も常に胸に刻み、東実同窓会の発展を、心より望んでやみません。

東実在職四年半の回顧と英語教育の展望

私は19歳の夏から四年近くの二度の病気と家庭の事情で30歳過ぎてしばらく昼間働きながら高校師範部に入學し、繰り上げ卒業ですぐ東京実業で初めて49年続いた教員生活を始めました。2階の教室から米飛行機に対する高射砲攻撃を見ました。帰宅すると隣組で防火演習のバケツリレー等していました。まだ日米開戦前でした。私は学徒動員で、中支で戦傷した弟の為陸軍病院で付添い後、私も又肺結核と診断され、一ヶ月間療養後退職して疎開することになりました。顧みれば短い年月でしたが、工業学校を卒業した十九歳の頃から十数年希望を固めていた英語教育の為私は希望に満ちて毎年教授法を考えては働いたものでした。上野熊蔵校長先生や鷹野宗太郎先生その他多くの先生方に教員として、そして人間としての模範を常に現実に見せて頂きとても楽しい職場でした。晩学で遅ればせながら実に幸運な教員生活を始め得たのを有難く思っています。教員室でもめたことは一度も覚えがなく、又生徒も反抗したり困らせた様なことは一度も覚えがありません。今思い出すと、生徒は皆真面目で授業に協力的でした。千葉県1年近くと、山口県4年近くの二度の疎開で健康が回復し、24年上京し中学と高校

元教員 大中秀男



に19年勤務し、その後19年大学で教えて、昨年春勤務校を退きました。

まだ80歳を過ぎたばかりで健康ですし、日本の英語教育の現状は中学教育から高校や大学教育まで甚だ私には残念ですが最近漸く英語教育会で現状の根本的改革が唱えられる様になり、教育養成から中・高・大学教育の大改変まで大仕事ですが、我が意を得た感じがします。去る七月カナダに旅行して役に立つ英語の必要を強く感じました。特に日本では発音とヒアリングとスピーキングで従来の数倍もの時間を授業にかけるべきだと思います。外国留学は出来なく英学校で習った教材等の外人吹込テープを何回も納得するまで聴きこむのが最も簡単にしてできる事です。私も十数年前から、教えた教科書を毎日4時間位聴きこんでいます。読みたい本も聴きたい音楽テープも充分あるし、時間は充分あり有難い老後を感謝しています。

何卒東実の私の知る旧先生方も現在御勤めの先生方も卒業生の多くの方々も現、在校生諸君もまず健康第一となされ、御健闘なさる様祈ります。

東京実業同窓会 新年会に出席して



校内幹事長 小島 浩

私が東京実業高校に入学したのは昭和18年4月、この入学式で上野塾理事の堀越三郎先生が祝辞を述べられ、当時としてはモダンな校舎建設の苦心談を感動的に私達に話して下さいたことをおぼえております。

堀越先生は創立者上野清先生の三男で、東京帝国大学工学部建築学科を卒業され、後に建築設計事務所を経営するかわら、東京高校も設計されたこと、「東実50年史」に書いてございます。

昭和11年、校地が手狭(てげま)になったため、東京の西神田から、この蒲田の地に移転することになったわけですが、いまのように土地が高くはなかつたでしょうが、これだけの広い敷地を求めそこに校舎を新築するというは大変な大事業だったと思います。

ところで今年1月末、恒例の東京実業同窓会新年会が銀座で開かれ、多数の同窓生が参会され懐旧談に花を咲かせましたが、その中に、東急建設株式会社副社長の河野典男(昭20商)氏がおられ、井上稔校長先生とも一緒に、蒲田移転の頃のことを話題になりました、この移転土地買収で、学校側に有利に交渉をすすめていただいたのが、当時東京急行電鉄の相談役をしておられた河野一三さんと典男氏の敵父にあたる方。これを更に協力助言していただいたのが実に東急社長の五島慶太氏であったという秘話まで披露されました。当時の蒲田を知る者にとりまして、現在の蒲田の変貌発展を予測することは困難でありましたでしょうし、その大英断、先見の明に今更の如く驚いております。

その後、戦運我に利あらず、多くの東実の先輩も南冥(なんめい)の果てに散ったというニュースを聞きましたが、昭和20年4月15日、東京大空襲でこの校舎はあとかたもなく焼けくずれ、このあたり一面焼野原となり、無念の想いで翌朝この焦土にたたずんでいたことを思いだします。

—そして幾星霜—

いま諸君が学ぶこの近代的な校舎を見ると、私達戦前、戦中、そして戦後、焼けあとにすこしずつ校舎を建て増していき、その中で生徒教職員が一体となって、「東実」を守り育ててきた者にとりまして格別の思が致します。

先日銀座での同窓会は期せずして、この話題に時の移るのも忘れて談笑しあいました。言葉にしていえば、わずかに40年余。この間、時はうつり、人は変わり、日本も実に世界の経済大国といわれるまでに発展して参りました。いいますれば、東実の歴史は昭和史の変遷と軌を一にしているように思えてなりません。

昭和62年6月、創立65周年を期して新校舎「21世紀をめざす究極の教育空間」—上野幸一前校長の言葉—が完成しました。これを仰ぎ見るとき、私は不思議な縁(えにし)が感じられます。と申しますのは、この校舎は上野毅先生(副校長)の設計になるもので、先生は早稲田大学工学部建築学科を卒業され、建築設計事務所を経営されていたこと、本校の理事であったこと、東京高校も設計されたことなど、堀越先生とあまりによく似ておられるからです。

それはともかく、東京実業を卒業して大学に行き、卒業後すぐ本校に奉職して40年余、旧校舎、新校舎に学び、古き諸先生、先輩後輩等、私にとりまして、「東実」はまさに自分の半身の思いが致します。

同窓生の皆さんが熟き思いをこめて、あの日語りあったことなどは、母校愛以外の何物でもないでしょう。

当時を知る者も段々少なくなっている今、数少ない生き証人として「東実」をしっかり見守っていきたいと心より願っております。

校内活動



学校教諭 山口敏雄

寒さがきびしくあたたかい春のおとずれを待つ今日このごろ、卒業生の皆様には益々お健かにお遇しの事と存じお慶び申し上げます。

想い出多き学び舎、我らが母校東実を卒業してからもう久しい年月がながれ、皆様には立派な社会人、家庭人として益々活躍のことと存じます。思い起こせば学生の頃、自分は将来こういう人になりたい、こういう家庭をつくりたいという夢を抱いて社会に出て……青春の友、懐かしの友、同期生・同窓生と思わぬ場所で思いがけない時に会えたりまた色々な情報が入手できることはとてもうれしいものです。

ここで学校の近況を報告いたします。東実は創立65周年記念のユニークな都市型校舎(一号館)が完成し、新校舎での授業も軌道にのったところです。

平成2年2月現在の生徒数は約2千名42クラスで各科とも授業を大切に頑張っています。・商業科ではマイコンを導入し情報処理に関する教科に力を入れると共に校内珠算・簿記検定等を実施し、簿記では1年4級、2・3年は3級を必修とし、最終的には日商・全商・全経簿記検定の3級に合格させるべく授業及び特別講習が実施されています。

・機械科では時代のニーズに応えるべく、マイコン、最新鋭NC機を導入し、少数グループによる進んだ技術教育がなされている。また、製図、溶接、玉掛け等々の実習、講習を通して検定、資格を取得させる指導がなされている。

・電気科ではマイコン、ポケコンを利用したプログラミングや電気に関する専門技術指導がなされています。特に電気工事士の特別講習により多くの生徒が合格し、その合格率は都内工業高校中トップの座を保っている。

・普通科は少数精鋭を特色に昭和54年に新設されて以来、特別合宿研修等による徹底指導がなされ、多くの私立大学へ、最近では少数であるが国公立大学に卒業生を送っている。ごく最近、日本経済、産経、読売新聞の各紙に平成2年2月7日締切の都内私立高校応募情況の新聞記事中、東京都内男子校の中で東京実業高校の普通科は募集定員50名に対し657名の応募者となっており倍率は13.14倍で早稲田実業高校を抜いて1位であった。商業・機械・電気各科は好景気も反映し就職率も高いところから4倍の倍率であった。

・クラブの概況

柔道部、バスケット部、テニス部等においては都内で相当の成績をあげることが出来た。野球部は夏の優勝校帝京高校と4回戦で敗れ大変面白い試合であった。レスリング部は伝統的に強い部だけあり東京都で優勝し全国大会に出場したが壁は大変厚いものであった。

ブラスバンド部は昨年念願のグランプリ賞を手にしたが、平成2年1月に行なわれた全国大会では僅差でグランプリをのぎしたが6年連続、金賞に輝いた。

・東実の二大特色

(1)社会奉仕

昭和39年から実施継続されてきた日赤献血は今でも後輩に立派にうけつがれ、平成2年度1年から2年まで3日間の校内献血の実績は450名の協力者があった。血液の不足する1・2月に実施されているこの献血で多勢の人の命が救われていることになる。

(2)国際交流

昭和42年から続けられている米国コロラド州ボルダー市内高校と東実の国際交流も今年が24年目を迎えることになる。その間200名の学生がお互いの国を訪問し国際親善に多大な貢献をしているのである。平成2年6月には東実から生徒と教師がボルダー市を訪れる予定である。またこの国際交流から3組の国際結婚が生まれ、幸福な生活を送られている。

回顧

16期卒 青木茂夫



昭和一桁時代の蒲田は、大震災以後の新興住宅地帯だった。私の住みついた昭和4年は郡制であった。蓮沼という地名通り、一面田園と蓮の生えた池が多く、親が子供に注意する言葉は、「蓮沼に近よるな。落ちこんだら泥沼だから、ずるずる滑って上がってこれない。死ぬよ。」などであった。今のように車の害はない。それこそダブルタイヤのトラックが石炭を積んで来ると、子供達がカ

なり遠くから集まってめずらしそうに、ワイワイ・ガヤガヤ話しあって見たもんだ。今のように早くは走れない道は砂利道で、せまい路面は凸凹だらけ。充分見る時間があつた。

現在の都心から80km以上の風情だろう。家の前の小川（今のドブ川）には藻が生えており、小魚が流れを逆に泳いでいた。蒲田唯一の川「呑川」には子供が泳いでいた。昆虫も種類いて、網を振り回しては追っかけ回し、汗みどろの毎日だった。

少し大きくなって電車に乗る機会が多くなった。親父は有楽町まで通っていた。私はタダ、蒲田駅前もまばら。連結四両の一台は今のドアでそればかり乗った。他は車掌が駆け回って外からガチャンと音をたてて閉める。着くと開ける。私の車は自然に開く。めずらしかった。

矢口東尋小学校に昭和六年入学。ピカピカの一年生。服装は、私服で下駄、学生服に帽子、ランドセルに手提げ布製カバンなど。やがて高学になるまで、大体前述のようなあまり発展しない蒲田だった。

戦争の気配がだんだん強くなった頃、矢口から下丸子の方には軍時的な工場が増えてきた。そしてそこに勤める人人が集まりだして家がどんどん建ち出した。

多摩川が私の水泳の場所で、逗子・鎌倉などは遠くて行けない。遠くてせいぜい森ヶ崎ぐらいである。

草野球のメッカ「三島ヶ原」大学野球の隆盛なさまをラジオは放送した。日曜日は毎回数組が優勝戦を争っていた。当時の有名な球場である。

ある日、目を見張った。そこに二階建ての大きな木造の建て物ができている。びっくりして先生にたずねた。それが「東京実業」で来年4月から開校するから「入れよ」と言われた。それが学校との縁の始まりとなった。

春になった。親父に連れられて入学前、制服・靴・帽子・その他の必要なものを揃えて心が温まった。また「ピカピカ」になった。半ズボンから長ズボン、帽子はピカピカ、登校、下校の時は大変恥ずかしく思った。

あまり憶えてないが、入学式には校長の文官服が眩しかった。偉い人なんだなあと思った。

上級生がおじさんに思えた。いつもおどおどしていた。担任は鷹野先生、「一点一滴」と「トランペット」は有名である。頭の天辺からの声。今でも耳にひびく。

校内に文具店、靴修理の店があつた。小学校になかったので珍しかった。教練にも熱が入った。そのせいか編あげ靴の底にやたら釘を打って「カツカツ」と歩く音がたまらなかつた。底、踵の修理、その代金は覚えていない。

文具店「みどりや」そこのおばさんが卒業の時「あなた、よく不良にならなかつたね」と言った。私はどつちつかずの人間かと自問した。なんとカ算盤をうまくならうと思って買に行ったら25円もするのを言葉巧みに売りつけられた。ちっともうまくならない。今もって心に残っている悔しさである。

教練、運動会は隣の大草原（御園中学校）で十分駆け回った。

いつの間にか自分がおじさんに見られるようになった。

戦争はますます激しくなる。先生もどンドン召集で交替が激しくなって、私達もそれに巻き込まれる仕儀となり。同窓生中半分以上不明である。あとはまた。(元年8月)

熊のような校長

17期卒 高木 稔

17回卒業生のクラス会が毎年初夏の頃に催されますが、この会には必ず30余名の同級生が集まって賑やかな談笑のひとときを過ごします。既に満65歳を迎えたか、さもなくば数ヶ月のうちに高齢者の仲間入りをする大正生まれですから、東京実業学校を卒業してやがて半世紀にわたるクラスメートです。私達が入学したのは昭和12年の4月です。神田から蒲田に校舎が移されて間もない頃です。数少ない商業専門の旧制中学ですから必須科目に簿記や商業英語などがありました。そして日本が第二次世界大戦に突入した翌年昭和17年春に東京実業学校を卒業した戦中派ですから軍事教練でしごかれもしました。

当時学校長は昨年他界された故上野幸一校長先生の岳父上野熊蔵先生でした。その名の通り熊のような偉丈夫で、立派なカイゼル髭を生やし、教育者というよりも「大政治家」「大実業家」的な風貌軀の先生がそこに居られるだけで生徒は畏敬したものでした。鶏ノ木にある姉妹校東京中学校の上野清塾長が見るからに学者、教授タイプの方と異なり対照的でありました。敗戦によって焼土と化した瓦礫の中で思想的な混乱や経済的な危機をよく乗り越えて田校を再建し、教育制度の改革期に今日の経営基盤を礎かれた事は諸兄もよくご承知の事と存じます。

余談になりますが、古武士の熊蔵先生にこんな一面もありました。秋も深まった穏やかな休日には故人となられた宮野先生や同じく東先生など多摩川下流でハゼ釣りを楽しむ事があり、私も何度かお伴をしました。校長が不器用な指先で餌のゴカイを鉤につけ10程のハゼがかかると大きく見開いた目を細めてカイゼル髭でかくされた大きな口をモグモグ動かしながら如何にも満足げに獲物を鉤から外して籠に入れる姿は幼児そのものでした。忙中に閑ありとでもいえるでしょうか笑顔の中に僅かな喜びに興じる熊蔵先生の面影が未だに胸にきざまれています。

熊蔵先生の後を引き継がれた幸一先生は斬新的なユニークな教育者だと思います。庶民的で気取りのない、それでいてダンティです。縄のれんの飲み屋でも平気で酒器を傾ける先生ですが絶えず教育界の将来を展望して大膽なポリシーを打ち出し、時流に乗って動いておられました。夢がいつのまにか現実のものになります。見事な手腕をもった方でバラエティに富み諸状勢など見極めながら確かな足取りを重ね驚異的ともいえる東京実業高校

をつくり上げたのです。「老驥に屈伏した志十里に在り、烈士暮年壯心已まず」昨年不孝にして病に倒れ故人となられた先生の心境は常に厳しく事業と対決されていたのではなかったでしょうか。

事実を語る時、恋いは事実を想う時、二人の優れた教育者の親子が志を継ぎながら生涯を賭けて青少年の指導と教育に傾けた崇高な精神を見過ごしてはならぬと思いました。

戸田にて

18期卒 佐々木 努

風呂は最上階にあった。大浴場とは名ばかりで、10人も入れれば適当なものだ。然し、ガラス越しの眺めはよく、駿河湾が見渡された。ガラス戸を開けて外に出る。今、流行の露天風呂だ。一といっても3人で満員、簡単な屋根と四角の木の浴槽があるだけのものだ。

先刻より、野村と2人で交互に入ったり出たりして喋りつづけている。宴会が終わったのが8時頃だから、九時過ぎだろうか。右側に黒々と山が迫り、道一本へだてて入江になっている海が見える。点々と光るのは漁り火だろうか、ほてついた体に夜風が心地よい……

東実15会第27回クラス会が10月1日去年の修善寺〇久旅館より1年半ぶりに、ここ西伊豆の戸田にて開かれた。

昭和から平成へ、消費税、天安門、東欧問題と内外共に激動の1年半だった。然しそれにも増して、3年間、水上、越後湯沢、修善寺とクラス会を一緒にした上野幸一校長ご夫妻が逝去され、ご息女雅子先生が理事長に、井上先生が校長にご就任になるとは、あまりにも変化が多すぎた。

「あら、あたしの生まれた前の年にご卒業なんですね。」という新理事長の言、何か大きく時代が変わってゆくのを感じざるを得ない。珍らしそうにご覧になる吾々の写真、銃剣に守られた校旗。木造校舎の前での戦闘教練。なぜか立膝をした清宮の姿がきわだっている。

……

梁川が後から叫んでいる
「小隊の攻撃目標、前方のアパート、第一分隊、左から攻撃……。」

清宮分隊長の声がとぶ。
「第一分隊の攻撃目標、前方アパートの左端擲弾筒前へ、タマ込め、距離150、撃て！」軽機関銃が火をふき、手榴弾がとぶ……。」

……

若さと希望に燃えた東実時代。然しバックは戦争で、なぜか教練ばかりが想い出される。軍隊に入り、実際に役に立った者、そして帰ってこなかった者……。

明るいうちに入った風呂場から、蒸気が盛んに飛びかか

っているのが見えた。山並みを沿うようにとぶもの、道路すれすれに下りたと思うとまた上がってゆく、海に出、山に上る。越冬するつもりか、遠くに行くトレーニングか……。見ているうちに、先に逝った者達がツバメになって歓迎してくれているように見えてきた。やたらに飛び回っているのは清宮か、ゆっくり飛ぶのは岩本か、真黒なのは生川か、大きな鳥が2羽、山から海へ横切っていた。

一校長ご夫妻か。

金森が、秦野が、石田が、若月が……それぞれに飛び回り楽しんでいるようだ。

「早くこいよ。みんないるよ。娑婆の喜怒哀楽を捨てて、永遠に生きようよ……」

どこからか、そんな声が聞こえてくるようだ。

「どっこい、そうはいかないんだ。」

野村も私も体が弱い。大患いしながら、どうやら戦中、戦後の激動期をここまで生きのびてきた。そして現役。社会的な責任もあり引くわけにはいかない。先に逝った者達にはしばらく待って貰う事にして、やらなくてはならないものがあるんだ。それは何か？よくわからない。後継者をつくることだろうか。何か一冊本を纏める事だろうか？

ことによると、それらをすべて知った上で校舎壁面のフェニックスは笑っているのかもしれない。

一。一。一。

あたりは静かになってきた。年齢を考えてか、飲む量も減り、馬鹿騒ぎもあまりしなくなってきた。明日も天気は良いだろうか……。(完)

給仕から教員になるまで

17期卒 松永千里



東実時代の思い出は色々ありますが、何といっても恩師のことが第一に浮かんできます。

日本史の粕谷先生の名講義は忘れられません。私が社会科の教員になったのは先生の影響力が大いにあったと思います。

商業簿記の河野先生は明治大学の制服で教壇にたっていた。先生は明大の応援団長もされていて野球の試合で母校が勝った時など「白雲なびく駿河台」と大きな声で歌って私達の眠気をさまして下さった。小生は先生の母校明大に憧れて、戦後明大に入学しました。国語の鷹野先生は、下田秋成の「雨月物語」を話された。その名調子はいまだに耳に残っています。

英語の佐野先生は虎の門事件の難波大助はどうしても罪を認めず処刑されたという話しをし、如何なる極悪人でも罪を悔いて死刑になっているのに大助は珍しいと話して下さいました。私はなぜか彼が英雄のように思われた。

学校の文芸誌「こだま」に「良寛さまはやさしいな」という題で詩を発表したことがあります。詩というより童謡といった方がよいかと思いますが、それが虚無的な思想であると、大層当時の高橋教頭先生に怒られたことがあります。

床をつきいで のびてきた。竹を切るのがいとしいと、そのまま部屋にのばさせた。

良寛さまはやさしいな。

こんな風なものだったと思います。私はただ純粋に良寛様を尊敬していたにすぎないのに、思想のしめつけがきつい暗い時代でした。

昼は銀座の会社で給仕をしながら夜は学校に通う。私の人生の中で一番辛い苦しい時でしたが、学校があるからがまんし、生きてこられたと思もします。

あの時期、個性豊かな恩師の方々のおかげで、理想に燃えた青春時代を過ごすことができたとも感謝しなつかしく思い出しています。

私の学生時代

18期卒 森 哲太郎



卒業以来45年、学校も戦災で焼失、昔の姿はありませんが、同期の仲間は益々元気、年一回の同期会も盛会です。

改めて思い出すと、私の学生時代はおよそ学業とは離れた自分の好きな事に集中した生活だった事が、今更ながら有意義だったと思われるのです。

小学校5年頃から、模型電車作りに、カメラいじりに、時計修理に熱中。東実時代は、カメラ熱はますます高く、音楽好きから良い音を、と電気蓄音機(オーディオセット)作りに。浪人中は七尾無線(現東芝)で、ラジオ作りの専門家に。横専(現神奈川大)時代は、入学が終戦の年、あの頃は生きる事に夢中な時代、休講の毎日。これではと校友会の再建に尽力、自ら総務委員長となり、戦後第一回の宮城前での全学連アモの主導者、とも角、学業から離れた自分の生活に全力投球の学生時代でした。

生来のカメラ好きから、現コニカの小会社に入り、28年退社後モーリス写真工業KKを設立。ストロボの専門家として、今日カメラの総てにストロボが組み込まれるまでの小型化に貢献。46年退任後は、航空機用等、産業用ストロボの技術開発を始め、光の専門家として国際的な技術者として今日に到っている。

学生時代で一番充実した中学時代、それが東実でした。当時の東実商業学校です。それが現在は完全な技術屋です。横専では工業経営科で、近代工業技術の基礎を学びました。自分の一番好きな事+東実での実務の基礎+横専での近代工業経営の基礎=現代に有用なマルチ技術経営者。

これが現在の私の姿の図式だと思います。

学生時代に一番大切な事は何か、自分の経験の中から感じる事です。

自分の本当に好きなものは？ それを見つける事、言い換えれば、それを持つ事、そして本当の友人を沢山見つける事。

それが学校。つまり東実だと思っております。

東実祭を参観 して想うこと

20期卒 香川政一



偶然ではあるが校門の前を通りかかって東実祭の当日であることを知り参観した。校舎も明るく近代的で内で学ぶ学生ものびのびと活発である。私の20期時代とつい比較してしまう。東実祭は学生が実行委員会をつくり開催にあたったそうで立派なものであった。

20期時代は昭和18年、3学年から授業を中止して、関西ペイント・富士航空に学徒動員されて終戦まで青春を費した。坊主頭によれよれの服、目ばかり光っていた。校舎でたまにうける補習授業には、清掃用油でなじんだ廊下と羽目板にかこまれ、先輩の落書のある木製の机と椅子に坐り、軍人勅諭の「不動の姿勢とは、軍人基本の姿勢とは、軍人基本の姿勢にして…」とカ三八式歩兵銃の部品である照星、遊底覆、とカ学んだことは今でも覚えている。

教育とは恐ろしい。そのあり方で人の歴史の一面を塗りつぶしてゆくからである。

今の学生は明であるとするならば、20期は暗である。在学生にその頃の話をして理解できない。経験していないからである。これは歴史的な流れであって否定できない。しかし、断絶があるであろうか。いや断絶してはいけないのである。日本はやがて米国のように衰退して、アジアの後進国に抜かれるといわれている。理由はいくつかある。でも資源のない日本は、技術革新で今まで通り進むしかない。

今の青年達に求められるものは、先輩の培った伝統をうけつぎ、技術を磨き、道徳論理を心に21世紀に邁進することである。

校歌を共に唱うとき、明暗の時代に生きる学生と20期O・Bとの間に断絶はありえないのだと確信しつつ明るい校舎を後にしたのであった。



在学中の思い出

23期卒 山本徳太郎



昭和18年7月東京実業学校入学。商業科に入学しましたが戦時特例により機械科に転科させられ、不幸な出来事でしたが、両方の分野を学んだ事はその後の人生に多少なりプラスとなったと思います。校舎は木造二階建てで南側を目蒲線が走り電車の中より学校が良く見えて運動会等は乗客が一勢に目を向けられている様な感じがしました。

運動会は煙幕の中を並行棒の上を駆け抜けたり射撃班の空砲の実射のアモンストレーション等でそれはそれなりに楽しんだものでした。

制服は黒の学生服からカーキ色制服となり戦時色の強い時代となり、年一回の校外演習に当時配属将校により厳しく軍の規律を叩き込まれました。

御殿場近くの滝ヶ原兵舎に二、三泊し校外訓練に出ました。高学年になりますと勤労動員があり軍需産業工場に配置され勉強は思う様に出来なくなりました。生徒も1人抜け、2人抜けして三クラスが二クラスに合流しました。

終戦の年に空襲で校舎も焼け近くの新潟鉄工の建物を借り勉強が始まりましたが雨の日は傘をさして授業をし冬は暖房等ない状況の中でしたが娯楽もなく食べ物も不自由しながらの青春の時に学業に専念し友情を温め何事にも一生懸命に過ごした東京実業学校の学生時代は人生の土台であったと思えます。特に戦中戦後に得た体験は以後事業承継し自信となって自己の人間形成に役立ち、私は常に現在生きている喜びを感じて居り在学中の想い出とさせていただきます。

深い係り合い

34期卒 本田位公子
(旧姓 石上)

この度「同窓会報」の発刊に当たりまして喜ばしく心からお祝いを申し上げます。

発刊の運びとなるにあたりましては学校の協力をはじめとしかけて御苦労して下さった方々の大きなお力添えがありました事は言うまでもなく大変だったと推察いたします。

同窓会と一口に申しまして、母校である学校と卒業生との信頼関係の上に成り立っているものでありまして、この信頼関係は地元の方々との永いおつき合いにも大きな力となっている事は当然です。

その中で同窓会の行事には今までにもたくさんの方が参加して下さいましたこの暖かいご協力で支えられている同窓会です。

時は移り変わりましたが、上野塾東京実業高校はここにあります。“卒業生”という一つの深い係りを持って積極的に皆様のご協力を得ながら、楽しい同窓会が益々発展されることをお祈り申し上げます。

テニスの思い出

35期卒 木村恭久

早く水をまいて。田んぼにするなよ。ラインを引いて、放課後の練習の始まりだ。石コロだらけのテニスコートの整備は、1、2年生の日課である。これが終われば、1、2年生は多摩川大橋まで練習場行きだ。コートが一面しかないの、土手ぶたいのマラソンで、多摩川大橋下の河川敷での壁打の練習である。それが終われば、又土手ぶたいのマラソンで帰り、やっとコートでの練習ができる。それでも人数が多いので、暗くなるまでの短い時間の交代での練習であるからいくらも出来ない。それも下手くそだから、ラケットにあたるよりも、球ひろいの方が多いのだからたまったものではない。それでもコートで打てる事がなにより嬉しかった。

今、考えてみると、良く考えた練習方法だと思う。壁打の場所が丁度よい所にあつたのも幸いしたのかもしれないが、東実では、グラウンドが無い事があたりまえの感覚だったので、不思議にも思わず先輩の厳しい指導のもとに、テニスをしたのが、豊かになった、今、考えると何んとも自慢にも思えるし、力強くも思えるし、なつかしくも思えてならない。

今は、テニスをやる事はないが、何もかも、不足していた時期に、楽しさ、嬉しさを味わえた事が、今でも東実に足を向かわせる基になっているのかもしれない……。でもいつかは、テニスをやりたいと思います。

東京実業高等学校 同窓会報発刊によせて

35期卒 親師会会長 川名重士

東京実業高等学校同窓会会報発刊にあたり、親師会を代表いたしまして心からお慶びを申し上げます。

本校はJR・東急蒲田駅に最も近く通学にとっても便利です。又公立中学校が隣接し、教育環境に適した蒲田の文教地区です。

創立65周年を記念して、地下一階地上六階の近代的な校舎が昭和62年6月に完成しました。ここで生徒諸君は優秀な諸先生のもとに学問と実技を磨き、立派な人間形成に努力されています。

私は昭和35年定時制卒業です。だから在学中は木造校舎の教室です。通学には必ず教科書類と上履用のスリッ

パを用意しました。冬のダルマストーブを囲んでの雑談、薄明かりの下でのバレーボール部の練習、レシーブのたびに膝にすり傷を負った土の校庭が懐かしく思われます。

社会科担当が現在の井上校長先生でした。最終学年の一学期の期末考査は時事問題をテーマにしたレポート提出でした。私は60年安保と言われた、日米安全保障条約締結について書きました。流行語になった声なき声で有名な岸信介首相、安保反対で学生運動が激しくなってきた時です。

また修学旅行では京都の旅館の二階でご法度のを友人と二人でそっと飲み、初めての体験が大変苦く、今ではつまみのバターピーナッツの味だけが忘れられませぬ。

終りに長い伝統を誇る本校にとって同窓会会報は輝かしい第一歩です。この会報を通して学校と同窓会さらに同級生の縦と横の心の絆としてなお一層同窓の輪が広がっていくよう祈念いたします。

忘れられないトコロテン

37期卒 菅原通子(旧姓 岩永)

今日ある私の生活の一部に高校3年間の思い出は消すことのできない歴史です。勉強をした思い出はないが、友との話らいやクラブ活動だけに毎日楽しく過ごした日々。当時の先生方又は校長(三代前)の上野熊蔵先生の人がらなど益するものが多々ありました。

当時、蒲田駅は今とは大分変わっておりまして、駅ビルもなく駅前には飲みや横町のような小さな店がいっぱいでした。クラブの帰りに甘味喫茶でトコロテンなど食べたことも今となってはいい思い出です。学校よりの就職先で、初任給1万1,000円也で大変うれしく、家に東京駅の前で売っていたカニを買って帰ったことを思い出されます。あれから27年、人間の人生にはどこかであの時生きる為の勉強になったと思う事があります。人によっては小学校の時だったり中学校だったり、私は高校3年間で勉強になりました。机の前の勉強ばかりでは社会に出た時、苦しむことが山とあります。長い人生には、一つ、二つ手をのばしてこれだと思ふことをつかんで自分の味方にして下さい。そして私は今同窓会の旅行などにも時々出席させてもらっております。先輩も後輩もなく、親の年ほど差のある人までも、同じ思い出をもっている親しさでおつきあいさせていただいております。又来年も楽しみによろしくお願い致します。



昭和46年卒

G3Aは…

校内幹事 飯塚方子(旧姓 小野)

昭和43年頃の蒲田駅は改築工事まっ最中で、駅周辺は雨が降るとぬかるんで、東急ビルの新築工事の足場等もあり、暗くジメジメした雰囲気だった。

入試当日は雪が降り、合格発表日は大雪で、校内掲示の予定が、速達で、自宅へ、合否を発送と、急遽変更となった。その位の大雪だった。

さて、入学してみると、これがまた、とんでもないクラスだった。授業中、先生をおだてて、歌をうたわせたり、天気が良いと、「屋上で勉強しましょう。」なんて勝手な事言っ、太陽の下、おしゃべり大会を開いたり…。あの入試の日、みんなが優等生に見えたのに…。

冬になると、こうだ。窓の下を、焼き芋屋さんが通る。すると、カバンを窓から投げ下ろし、「中にお芋、入れといて/今、降りて行くから。」代表が集金して、受け取りに行く。

また、交替で誰かが、遅刻する。理由は、昼食のパン買い。前日に、注文を取り、翌朝、買いに行く。当時の人気商品は、蒲田アーケード「鈴木製パン」の大きな三角形のパンで、間に、ジャムや、ピーナツバターをはさんだものだった。これが又、おいしかった。時々、「鈴木製パン」をのぞくのだが、あれ以来、目にしたことがない。

こんなクラスではあつたけれど、皆、気のいい連中である。このごろは、懐かしいあの頃に戻りたくて、年一回は、クラス会を開いている。常時、20人前後集まる。話題はもつばら、在校中の事。

「あの先生、どうしてる？」

「〇〇先生は、相変わらず歌ってるの？」

「あの時、先生、怒らせちゃって、教室、出て行っちゃったんだよね。」

「ネエ、あの、いつもチャック開けてた先生、元気？」

と、賑やかな事、賑やかな事。在校中、付き合いのなかった人たちの方が、今は会う機会が多く、知らなかった彼女たちの、背中を見るようになり、G3Aとしてのつながりも、深まったような気がする。また、担任の、吉田先生も、毎回、参加して下さり、父親のような暖かさで、私達を包んでくれる。

嫁・姑問題やら、子供のこと、先生には、安心して打ち明けられる。最も、先生にとっては、迷惑な事かもしれないが、これも、我G3Aの担任となった、身の不運を嘆いていただかなくてはならない。

とにかく、46年卒、G3Aというのは、個性の強い、はみ出しクラスだったかもしれないが、お人好しぞろいの、ゆかいな集団であった。こんな仲間と、お父さん先生にめぐり会えたことを、私は、この東実に、感謝したい。

卒業生出会シリーズ①

技能を教えてやる

「小森印刷機械をお買上げいただいで有難度う。」と営業マンは続けて得意気に「当社では最優秀の技術指導員を紹介します」。いかにも現場でたたきあげた瘦形の小柄な青年を紹介された。

「さあ誰かな運転するオペレーターは」「はい私です」小生何時もと違った純な気持ちになり「よろしくご指導下さい」と1週間の指導期間に乗り出したものでした。

それは丁度一年前の4月22日のことであった。1日目は無事教員らしき言語に押しまわれ終了。翌日早朝より又その指導員T氏はいかにも熟練者らしく手際良く小生をコキ使う。「私だって10年間他の小さな印刷機を使って食ってきたんだ!!」と心に小さく叫びながら返事もハイからウンに変わって来ていた。2日目は午後6時を廻ってしまったので、「それでは先生夕食にでも行きましょう」と誘うと心よく「良しヤツ!!」とばかり乗ってきた。

常連の蒲田の或るバーへ行き、アルコールの入る程良き頃その先生曰く「私も懐かしいものだこの辺は、20年前はこの近くの高校を卒業したんだ」とアツと驚く小生の顔を見ながら「東実なんだよ」とぬかしやがった。

配役 指導員 第44期卒業生 戸井田良治
機械を買ったヤツ 第22期卒業生 井上 實

作業服・事務服の総合メーカー

品質・信用を誇る

トラヤ

作業服
事務服
軍手
白衣
雨合羽

お気軽にダイヤルを

直売 ☎(735)7311~5

あらゆる企業の要求にお応え致します

東京都大田区西蒲田
7-49-9

御一報次第すぐ係員参上

東京トラヤ株式会社

大田区蒲田(JR 蒲田駅西口本通)
サンライズカマタ通り



18期同期会

平成元年度の東実一八会が9月30日(土)横浜中華街の大平楼で催された。当日出席者は、卒業以来初の御出席を頂いた英語の大中秀男先生、毎回御出席の三科六郎先生を中心に24名。選暦を過ぎた仲間の話題は健康の事、あと4年で卒業50年。50年記念は盛大に全員の出席を、それと相も変わらぬ在校当時の昔話、深秋の一夜を有意義に、そして来年の再会を約して何時もながらの楽しい一夜でした。18期卒 森 哲太郎(クラス会等の様子をお知らせ下さい)



山中湖寮とテニスコート



山中湖学寮付属体育館



創立60周年記念式典



第14回全国高校マーチングバンドコンテスト
"念願のグランプリ賞にかがやく"

お祝に、お仏事に
の里最中本舗

和菓子の
よね屋

大森店 八上通り (761)5344
蒲田店 サンライズ通り (731)3711

同窓会役員幹事名簿

- 名誉会長** (学校長)井上 稔
会長 (16.12)村松 濱代
副会長 (副校長)上野 毅 (17.12)佐々木 努
 (27.3)渡辺 和彦 (35.3)木村 恭久
 (35.3)後藤 光明 (34.3)本田位公子
会計 (学校)池田 仁子 (43.3)絵面 清一
会計監査 (学校)小島 浩 (17.12)野村 勝一
書記 (学校)米田 仁昌(事務局)
常任幹事 (19名)
 森 哲太郎(18.3) 竹中 郁夫(20.3)
 井上 実(22.3) 遠藤 孝一(22.3)
 山本徳太郎(23.3) 畑中傳次郎(25.3)
 本間 計吾(29.3) 箕輪 弘数(29.3)
 内藤 康邦(31.3) 松下 光夫(31.3)
 川名 重士(35.3) 高橋 洋太(36.3)
 久保田康英(36.3) 齊藤 君子(37.3)
 戸田 三光(39.3) 白田 佳彦(42.3)
 黒田 芳彦(39.3)
校内幹事 (15名)
 校内幹事長 小島 浩(23期)
 校内幹事 (15名)
 浅賀 英雄(33.3) 大久保幸子(33.3)
 荻野 知昭(42.3) 鈴木 政廣(42.3)
 井上 昭(42.3) 千田 一雄(43.3)
 森 吉男(43.3) 馬場 文男(45.3)
 知念 義裕(45.3) 原田 忠彦(46.3)
 飯塚 方子(46.3) 田中 新一(53.3)
 細井 守英(54.3) 米田 仁昌(37.3)

平成元年度 同窓会の活躍

- 平成元年 平成元年度 入学式参加(代表) 於：体育館
 4月10日
 5月17日 常任幹事会(平成元年度事業計画、他) 於：会議室
 30日 常任幹事会([同窓会会報]発行について) 於：会議室
 6月7日 会報委員会(打ち合せ会) 於：会議室
 28日 常任幹事会(定期総会の打ち合せ会) 於：会議室
 7月1日 平成元年度定期総会 於：大森東急イン
 7日 会報委員会(打ち合せ会) 於：会議室
 14日 常任幹事会(懇親旅行について) 於：会議室
 8月7日 会報委員会(打ち合せ会) 於：会議室
 28日 常任幹事会 於：(懇親旅行最終打ち合せ会) 於：会議室
 9月2日 第7回 懇親旅行会(1泊2日)
 ~3日 於：湯河原(南明園)
 6日 在校生(三年生)に「同窓会会員名簿」配布 於：各教室
 10月6日 体育祭(有志・代表) 於：大井競技場
 11月1日 文化祭(有志・代表) 於：本校
 ~3日
 11月20日 常任幹事会(本年度卒業新幹事と常任幹事との懇親会の打合せ) 於：会議室
 12月14日 本年度卒業生新幹事と常任幹事との懇親会 於：会議室
 平成2年 新年顔合せ参加(代表) 於：会議室
 1月8日
 20日 幹事会(新年会最終打合せ) 於：会議室
 27日 同窓会有志新年会 於：銀座ライオン
 3月3日 平成元年度 卒業式参加(代表) 於：会議室
 以上



東京実業同窓会会員総数

平成元年4月現在
()：女子

会 員 総 数		商業系	工業系	普通系
23,428 (2,522)		11,595 (2,522)	11,413 (2)	420
内 訳	昼間部(同窓会) (大.15~平.2)	19,202 (2,382)	9,240 (2,382)	9,542 (2)
	夜間部(蛍窓会) (昭4.~昭.52)	3,586 (228)	2,223 (228)	1,363
	専門学校(五葉会) (昭.35~昭.48)	640 (2)	132 (2)	508 (2)

◎平成2年3月卒業予定者数762名(商業系：285、工業系<機械>290+<電気>139=429、普通系：48)



旅行会

東京実業高校同窓会会則

(昭和63年11月3日改正)

第一章 名称及び事務所

第一条 本会は東京実業高校同窓会と称し、本会の事務所を東京実業高校内に置く。

第二章 目的

第二条 本会は会員相互の交誼を厚くし母校の隆盛を図ることを目的とする。

第三章 事業

第三条 本会は会員名簿及び同窓会報を発行する他、第二条の目的を達成するため必要な事業を行う。

第四章 会員

第四条 本会は東京実業高校の卒業生、ならびに本校に関係のある卒業生及びこれに準ずる者を正会員とし、現教職員、元教職員を特別会員とする。

第五章 役員

第五条 本会に左の役員を置く。

名誉会長(学校長)	1名	書記	1名
会長	1名	常任幹事	19名
副会長(1名は副校長)	6名	幹事(各卒業年度各組)	2名
会計	2名	顧問相談役	若干名
会計監査	2名		

第六条 会長・副会長・常任幹事・会計・会計監査・顧問・相談役は総会に於て推薦する。

第七条 会長は本会を代表し、会務を執行する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

第八条 役員は任期は二ヶ年とする。但し再任を妨げない。

第六章 総会及び幹事会

第九条 会長は幹事会を召集し、会務の執行を協議す

る。その議決は出席者の過半数による。

第十条 会長は毎年一回以上総会を招集しなければならない。総会の決議は出席者の過半数による。

第七章 会計

第十一条 東京実業高等学校生徒は在学中に終身会費一万円を同窓会に納入し、(但し平成元年卒業者は三千元、平成二年卒業生は五千元)卒業と同時に本会会員たる資格を得る。

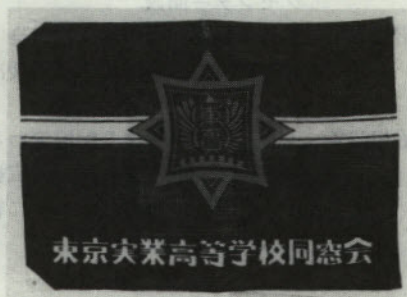
第十二条 本会の経費は終身会費・寄付金・その他の収入を以て充当する。

第十三条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第八章 会則変更

第十四条 本会則は総会の議を経て変更する事が出来る。東京実業高校同窓会会則(補則)(平成元年四月十五日)

以上



同窓会旗



同窓新年会 平成2年1月27日 於：銀座サッポロスターホール

最近の母校だより

卒業生の皆様方に母校の主たる近況を報告致します。

- 昭和55年 大晦NHK紅白に吹奏楽部出演
 昭和56年 6月 吹奏楽部60名海外(メキシコ)演奏。
 昭和57年 11月 創立60周年記念祝賀会、記念事業
 山中湖学寮・鶴の木研修所落成
 昭和58年 11月 故上野幸一校長「勲四等旭日小綬章」を受く
 昭和59年 7月 レスリング部海外(カナダ)遠征
 8月 山中湖学寮に体育館落成
 10月 吹奏楽部海外(カリフォルニア)演奏。
 12月 上野塾総合研究所を鶴ノ木駅前に開所。
 昭和60年 5月 故上野幸一校長慶応病院に入院。
 6月 母校体育館にトレーニングセンター開設。
 昭和62年 10月 創立65周年記念祝賀会
 新校舎(地上6階地下1階暖冷房・エレベータ付)落成。
 昭和63年 4月 新1年生より制服変わる。(黒の学制服→グレーの背広紺のネクタイ、胸のポケットに紋章入り。)
 5月 FAX732-4456入る。

- 7月 レスリング部東京都優勝祝賀会
 10月 故上野校長夫人ご逝去
 11月 上野 幸一校長ご逝去
 上野雅子理事長、井上稔学校長就任。
 12月17日故上野幸一校長学校葬
 平成元年 1月 全国高校マーチングバンドコンテストに於いてグランプリ受章
 7月 野球部東東京ベスト8(対帝京高戦に惜敗)
 11月 井上稔校長文部大臣教育功労賞授章

人事関係

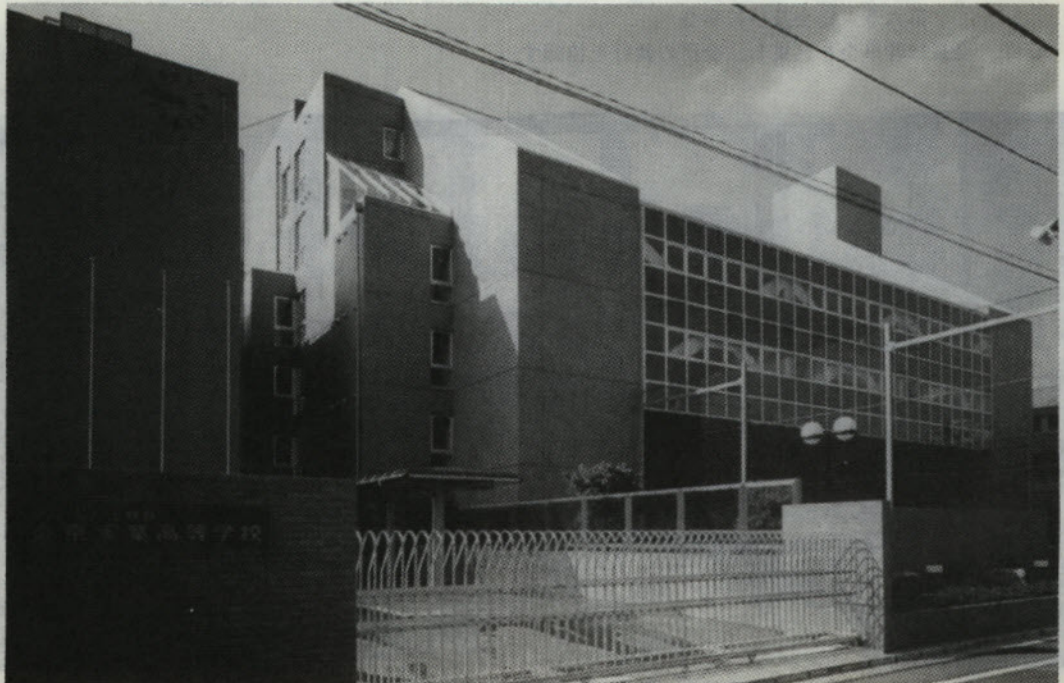
昔、お世話になった先生方の退職

- 昭和55年 山脇道弘 先生
 昭和58年 吉田徹男 先生 花房幹郎 先生
 花房悦子 先生
 昭和59年 中村栄一 先生
 昭和60年 大庭満介 先生
 昭和61年 宮地政幸 先生 株橋 武 先生
 昭和63年 細江和四郎先生 大平礼五郎先生
 平成2年 原 庸 先生 田中留雄 先生
 黒沢修一 先生

訃音

- 昭和61年4月 鷹野宗太郎先生
 昭和63年10月 上野明子校長夫人
 昭和63年11月 上野幸一理事長校長

新校舎



★事務局だより★

永年の宿願だったこの「同窓会報」、皆様のご協力ご援助により、ようやく第1号の発刊の運びとなりました。今後共よろしくお願い致します。

この欄は、事務局よりのお知らせ、お願いと連絡事項等を主に記載致します。

◎お知らせ◎

同窓会では毎年三大大行事を行なっております。どなたでも参加できます。お友達を誘って、又グループで、お気軽にご参加下さい。本年(平成2年)度は……

①定期総会：平成2年6月16日(土) 午後2時
大森東急イン 会費八千円

②懇親旅行：日時・行先・会費共に未定。
例年9月第一の土日か日月一泊
※昨年9月土日湯河原一泊一万三千元

③新年会：平成3年1月26日(土)午後六時
会場・会費未定(但し毎年1月の最終土曜日と日程は決定済)

※昨年1月27日(土)銀座四丁目角サッポロスターホール八千円

上記のご案内状は全員にはとても発送できません。参加希望される方はお早目にご連絡(電話も可)下さい。

詳細案内状を発送いたします。

◎お願い◎

①会員名簿作成について

同窓会では5年毎に会員名簿を作成する事に決めております。次会は1992年(平成3年)になります。「一人でも多く、正確な住所を！」お互い卒業生と出会ったら事務局に新しい住所を連絡する様声を掛けてください。

②終身会費の納入について

本会の活動を活発化する為にも終身会費の納入にご協力下さい。尚納入された方には会報を送付させていただきます。

振込方法：全国郵便局

振込先：東京6-56316 東京実業高校・同窓会宛

振込金額：¥10,000(但し、従来の年会費納入者は¥5,000でも可)

③「同窓会報」投稿について

この会報には卒業生どなたでも投稿できます。クラス会の様子、卒業生(先輩・後輩)との出逢い、自営・営業の方はPRに、何なりとご利用下さい。

投稿はいつでも結構です。お急ぎでない原稿は適時に次号にお載せ致します。

◎連絡事項◎

①会員名簿(第3版)'87年版が出来ております。ご希望の方はハガキ又は電話でお申込下さい。

②母校(事務局)にFAXが入っております。732-4456ご利用下さい。

③事務局からの往復文章には、期限内に必ずお返事をくださる様お願いします。

編集後記

会報第1号をお届け致します。

母校が創立して以来68年が経過している時、本来ならば既に何十回と発行していなければならないのに今頃になって第1号とは編集委員として自責の念を禁じ得ません。しかも平成元年度内に発行の予定が延びに延びて今日になってしまったことを、この場をお借りして、ご投稿して下さいの方々をはじめ学校長、諸先生方、会員の皆様に深くお詫び致したいと思います。

今後はこの会報の活動を通じて会員同志の交流を深め、また会員と学校との「共通の広場」として役立つ会報をお届けしたく、未熟ながら編集者の一同張り切っております。未だ歩き始めたばかりです。皆様方の深いご理解と強力なご協力が無ければ始まりません。どうぞよろし

くお願い致します。一人でも多くの会員の原稿を頂き、各分野からの内容も掲載したいと思います。4次号のために、沢山のご投稿(広告)を只今よりお待ちしております。

ご多用の中にもかかわらず、快くご寄稿下さった理事長、学校長、諸先生方それに会員の皆様方に心から感謝申し上げます。

- 編集委員長 村松 濱代(17期)
- 同 委員 井上 実(22期)
- " 松下 光男(31期)
- " 本田位公子(34期)
- " 米田 仁昌(学校)



東京実業高等学校指定店——ボールペンからOA機器まで

菊屋浦上商事株式会社

本社営業所

大田区西蒲田7-45-8
TEL 03 (737) 1 5 5 1(代)
FAX 03 (737) 1 5 5 8

サンライズカマタ店

大田区西蒲田7-65-3
TEL 03 (735) 3 6 5 1(代)

神奈川営業所

相模原市相模原6-26-7
西門商店街
TEL 0427 (54) 9 2 1 1(代)
FAX 0427 (54) 9 0 5 1

めっき表面処理に関する
材料・設備・除害・分析
の一切の業務をしています。

株式会社 三 松

代表取締役 村松 濱代
(昭16. 12. 卒)

本社 ☎144 大田区西蒲田7-57-11
TEL (03)733-7131・FAX 739-0321

株式会社

佐々木印刷所

佐々木 努
(昭17. 12. 卒)

東京都大田区多摩川1-18-5
TEL758-0710 FAX758-2821

●各種スプリング
製造・販売

株式会社 川名技工所

代表取締役 川名 重士
(昭35. 3. 卒)

TEL 738-8462
FAX 736-3627

東京実業高校教科書
新刊・雑誌・参考書

一二三堂書店

本店 蒲田西口サンライズ
アーケード通り
TEL 731-5120

常田病院

内科・小児科
外科・整形外科

院長 常田 穰
(学校医)

☎144 東京都大田区西蒲田7-60-6
☎ 733-8851

酒類の事なら何でも相談承ります

酒の 旭 屋

瀬戸 秀彦
(昭34. 3. 卒)

東京都大田区西蒲田7-49-10
☎ (03) 731-7111(代)